

# 令和3年度 国語（書写）第2学年 年間指導・評価計画 中野区立第二中学校

【第二学年】

(評価規準：【A】十分満足できる，【B】おおむね満足できる)

時間	ページ	教材名	学習のねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
適時	55	目次 第二学年	○第二学年における書写の学習内容や目標を理解することができる。	【B】第二学年における書写の学習内容や目標を理解している。 【A】書写学習が日常のさまざまな書写活動に生きることを理解している。	【B】第二学年における書写の学習内容や目標を確認している。 【A】第二学年における書写の学習内容や目標を考え、自己の課題を捉えている。	【B】第二学年における書写の学習内容や目標を、把握しようとしている。 【A】第二学年における書写の学習内容や目標を、自らすすんで知ろうとしている。
適時	56・57	(コラム) あの人が残した文字	○日本の歴史上の人物が書いてきた文字について関心を持ち、書かれた字形や身のまわりで残されてきた文字について話し合い、文字についての興味を深めることができる。	【B】日本の歴史上の人物が書いてきた文字の書体や種類などを理解している。 【A】日本の歴史上の人物が書いてきた文字の書体や種類などをよく理解している。	【B】日本の歴史上の人物が書いてきた文字を探して、文字について考えている。 【A】日本の歴史上の人物が書いてきた文字を探して、書体や種類の違いなどを的確に判断している。	【B】日本の歴史上の人物が書いてきた文字に興味・関心をもっている。 【A】日本の歴史上の人物が書いてきた文字に関心を持ち、意欲的に探したり、調べたりしている。
6	58～63	一 行書で書こう	<b>単元目標</b> ○行書の点画の特徴について理解を深め、筆使いに気をつけて書くことができる。 ○行書で学習した成果を、日常生活に生かしていくことができる。			
	58・59	1 点画の連続と省略 「初志」	○点画の省略を理解して書くことができる。	【B】点画の省略の仕方を理解している。点画の省略の仕方を理解して書いている。 【A】点画の省略の仕方を理解し、字形を整えて書くことを把握している。点画の省略の仕方を理解して、字形を整えて書いている。	【B】点画の省略による書き方を確かめ、自己の課題を考えている。 【A】行書の筆使いの中から自己の課題を見つけ、その解決方法を考えている。	【B】「ころもへん」の省略の書き方について、課題意識をもって取り組んでいる。 【A】「ころもへん」の省略の書き方から自己の課題を把握し、その解決に向けて意欲的に取り組んでいる。
	60・61	2 筆順の変化 「深緑」	○筆順の変化を理解して書くことができる。 ○「さんずい」の連続を理解して書くことができる。			
	62・63	3 学習を生かして書く 一行書の特徴一	○これまでに学習してきた行書の特徴を理解して書くことができる。	【B】これまでに学習した行書の特徴について理解している。これまでに学習した行書の特徴について、自己の課題を理解して書いている。 【A】行書の特徴を知り、点画の変化、連続、省略、筆順の変化を理解し、字形を整えて書くことを把握している。行書の特徴を知り、点画の変化、連続、省略、筆順の変化を理解して、字形を整えて書いている。	【B】これまでに学習した行書の特徴から、自己の課題を考えている。 【A】行書学習のまとめとして自己の課題を見つけ、その解決方法を考えている。	【B】これまでに学習した行書の書き方に習熟し、配列よく書こうとしている。 【A】行書学習のまとめとして、行書の特徴の中から自己の課題を把握し、その解決に向けて意欲的に取り組んでいる。
7	64～77	二 行書と仮名を調和させて書いてみよう	<b>単元目標</b> ○行書と仮名を調和させて書くことができる。 ○学習したことを、日常生活のさまざまな書式に生かしていくことができる。			
	64・65	1 行書と仮名の調和 「喜びの声」	○点画の連続と配列を理解して書くことができる。	【B】行書と仮名の調和を理解している。行書と仮名の調和について確かめながら書いている。 【A】行書と仮名の調和や配列の整え方を理解している。行書と仮名の調和を理解し、行書の筆使いを生かして書いている。	【B】紙面全体の調和を考えて、点画の連続と配列を考えている。 【A】紙面全体の調和を考えて、点画の連続と配列を意識している。	【B】行書と仮名の調和について、自己の課題を見つけようとしている。 【A】行書と仮名の調和における課題解決に向けて、意欲的に取り組んでいる。

時間	ページ	教材名	学習のねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	66・67	2 行書に調和する仮名 「いろは歌」	○行書に調和する仮名の筆使い、字形を理解して書くことができる。 ○「いろは歌」や五十音表について理解することができる。	【B】行書に調和する仮名の筆使いを理解している。行書に調和する仮名の筆使いを習得しようとしている。 【A】行書に調和する仮名の筆使いを理解し、字形を整えて書くことを把握している。行書に調和する仮名の書き方を習得して、字形を整えて書いている。	【B】行書に調和する仮名の筆使いについて考えている。 【A】行書に調和する仮名の筆使いの特徴について、適切に判断している。	【B】行書に調和する仮名の書き方を習得しようとしている。 【A】自己の課題を設定し、その解決に向けて取り組んでいる。
	68～70	3 文字の大きさと配列	○文字の大きさや配列を理解して書くことができる。	【B】紙面全体の調和を考えて、文字の大きさや配列を理解している。紙面全体の調和を考えて、文字の大きさや配列を理解して書いている。 【A】紙面全体の調和を考えて、文字の大きさや配列に注意し、調和よく書くことを理解している。紙面全体の調和を考えて、文字の大きさや配列を理解し、字形を整えて書いている。	【B】紙面全体の調和を考えて、文字の大きさや配列を考えている。 【A】紙面全体の調和を考えて、文字の大きさや配列を意識している。	【B】行書と仮名の調和について、自己の課題を見つけようとしている。 【A】紙面全体の調和を考えて、行書と仮名の調和の書き方における自己の課題を設定し、その解決に向けて取り組んでいる。
	71	(コラム) 短冊と色紙 (発展) 【適時】	○短冊と色紙について関心をもつことができる。			【B】短冊と色紙について関心をもっている。 【A】短冊と色紙について関心をもち、すすんで調べようとしている。
	72・73	4 書く速さを意識して書く —行書と仮名の調和— 『走れメロス』	○行書と行書に調和する仮名の書き方を理解して、速く書くことを意識することができる。	【B】行書と行書に調和する仮名の筆使いを習得し、速く書くことを理解している。行書と行書に調和する仮名の筆使いを習得し、速く書いている。 【A】行書と行書に調和する仮名の筆使いを習得し、速く書くことを理解し、調和よく書くことを把握している。行書と行書に調和する仮名の筆使いを習得し、字形を整えて速く書いている。	【B】行書と行書に調和する仮名の筆使いを習得し、速く書くことを考えている。 【A】紙面全体の調和を考えて、文字の大きさ、行の中心、余白の取り方などを意識している。	【B】行書と行書に調和する仮名の筆使いを習得しようとし、速く書くことを意識している。 【A】行書と行書に調和する仮名の筆使いにおける自己の課題を設定し、解決を図ろうとしている。
	74～77	5 学習を生かして書く —行書と仮名の調和と配列— 『枕草子』『平家物語』	○行書と仮名の調和と配列を理解して書くことができる。	【B】行書と仮名の調和と配列を理解している。行書と仮名の調和と配列を理解して書いている。 【A】行書と仮名の調和と配列を理解し、調和よく書くことを把握している。行書と仮名の調和と配列を理解して、字形を整えて書いている。	【B】行書と仮名の調和と配列を考えている。 【A】行書と仮名の調和と配列を考え、適切に捉えている。	【B】国語の古典での書写活動に興味・関心をもって取り組んでいる。 【A】国語の古典における文章について、形式を整えて書こうとしている。
4	78～85	三 学習活動や日常生活に生かして書こう	単元目標 ○学習活動や日常生活を想定し、漢字と仮名の調和、文字の大きさや字間・行間、書式に気をつけて適切に書くことができる。			
	78・79	1 さまざまな書く場面	○目的や必要に応じた書き方をするにはどのような点に注意するとよいか、話し合うことができる。	【B】目的や必要に応じて楷書や行書を選ぶことや、配列の整え方について理解している。 【A】目的や必要に応じて楷書や行書を選ぶことや、配列の整え方について、よく理解している。	【B】目的や必要に応じた形式や用具について考えている。 【A】目的や必要に応じた形式や用具について、日常生活との関連を話し合うことができる。	【B】目的や必要に応じた書き方について、自己の課題をもって取り組んでいる。 【A】目的や必要に応じた書き方について、自己の課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。
	80・81	(コラム) 日本建築と「書」 (発展) 【適時】	○日本の伝統的な建築とそこに使われていた「書」について理解することができる。			【B】日本の伝統的な建築とそこに使われていた「書」について関心をもっている。 【A】日本の伝統的な建築とそこに使われていた「書」について関心をもち、すすんで調べようとしている。

時間	ページ	教材名	学習のねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	82・83	2 学習を生かして書く ・新聞を書く	○読み手を意識して、新聞を書くことができる。 ○文字の大きさや配列を理解して、読みやすく書くことができる。	【B】新聞の形式に合わせた漢字と仮名の調和や配列について理解している。新聞の形式に合わせた漢字と仮名の調和や配列について理解して書いている。 【A】新聞の形式に合わせた漢字と仮名の調和や配列、字形を整えて読みやすく書くことを把握している。新聞の形式に合わせた漢字と仮名の調和や配列について理解して、字形を整えて読みやすく書いている。	【B】新聞の形式に合わせた漢字と仮名の調和や配列について考えている。 【A】目的に応じた形式や用具を考え、日常生活との関連を意識している。	【B】新聞の形式に合わせた配列を考え、漢字と仮名の調和に慣れようとしている。 【A】目的に応じたさまざまな書式を考え、読みやすく書こうとしている。
	84	・掲示物（ポスター）に案内を書く	○伝える相手を意識して、掲示物に案内を書くことができる。 ○文字の大きさや配列を理解して、読みやすく書くことができる。	【B】掲示物に適した漢字と仮名の調和や配列について理解している。掲示物に適した漢字と仮名の調和や配列について理解して書いている。 【A】掲示物に適した漢字と仮名の調和や配列について理解して、字形を整えて読みやすく書くことを把握している。掲示物に適した漢字と仮名の調和や配列について理解して、字形を整えて読みやすく書いている。	【B】掲示物に適した漢字と仮名の調和や配列について考えている。 【A】目的に応じた形式や用具を考え、日常生活との関連を意識している。	【B】掲示物に適した配列を考え、漢字と仮名の調和に習熟しようとしている。 【A】目的に応じたさまざまな書式を考え、読みやすく書こうとしている。
	85	・補充教材案内状を書く	○伝える相手を意識して、書式や配列を理解して、案内状を書くことができる。 ○目的や必要に応じて、効果的に伝える工夫の仕方理解することができる。	【B】案内状に適した漢字と仮名の調和や配列について理解している。案内状に適した漢字と仮名の調和や配列について理解して書いている。 【A】案内状に適した漢字と仮名の調和や配列を意識して、字形を整えて読みやすく書くことをよく理解している。案内状に適した漢字と仮名の調和や配列について理解して、字形を整えて読みやすく書いている。	【B】案内状に適した漢字と仮名の調和や配列について考えている。 【A】目的に応じた形式や用具を考え、日常生活との関連を意識している。	【B】案内状に適した配列を考え、漢字と仮名の調和に習熟しようとしている。 【A】目的に応じた書式で書き、これからの日常生活に生かそうとしている。
	86	(コラム) 書の古典の鑑賞 (発展) 【適時】	○さまざまな楷書の古典について、関心をもつことができる。			【B】さまざまな楷書の古典について関心をもっている。 【A】さまざまな楷書の古典について関心を持ち、すすんで調べようとしている。
3	133～136	書き初めを書く 「生命の尊重」 「伝統の継承」	○文字の大きさや字間、行の中心などを理解して、配列よく書くことができる。	【B】行書の筆使いや字形、文字の大きさなどを理解している。行書と仮名の筆使いや字形を理解して書いている。 【A】筆使いや字形、文字の大きさなどを理解して、調和よく書くことを把握している。行書と仮名の筆使いや字形を理解して、配列を整えて書いている。	【B】紙面に対する行書と仮名の調和のさせ方を考えている。 【A】紙面に対する行書と仮名の調和のさせ方を的確に捉えている。	【B】自己の課題をもって取り組んでいる。 【A】自己の課題解決に向けて、積極的に取り組んでいる。